

現場での話も入っていたので、想像して考えやすかったです。とても大事なことばかりでとても勉強になりました。
利用者の気持ちを理解できるようになり、吸引の説明ができるように取り組んでいく必要性を学べて良かったです。
口腔内と気管で吸引圧が違うことを初めて知りました。
今回の講義内容を受けて子供だけでなく、認知症の利用者に行う際も十分に声掛けなどを行い、不安や恐怖を和らげてあげられるようにしたいと思います。
細かく分けて教えていただき、わかりやすかったです。休憩も間に入れていただいたので、最後の講義でしたが、内容が頭に入りました。
情報の共有と迅速な行動があらゆる面でチームや個人にとっても大事なのだと改めて思いました。
呼吸する利用者や家族の気持ちを考えると、説明は大切なことであると理解でき、共感することが大切とわかりました。感染を起こさないようにしっかり注意していくこと、またおかしいと感じたら看護師・医師に必ず報告し、一人で行わないということを心掛けたいと思います。
吸引時の注意事項や大人と子供の対応や施行方法の違いがわかりました。
患者への説明や同意の重要性や、不安を与えない喀痰吸引を行うために適切な知識を身に付ける必要性を感じました。また苦痛を和らげられるように精神的なケアにも気を配り、接していく必要があると思いました。
喀痰吸引において、施行される側はとても恐怖心を抱いていることが多く、それを取り除くためにもわかりやすい説明と安心感を与えることが重要になってくると思った。1人では無理そうな時は複数で対応し、家族にも協力をしてもらうことが大切だと認識しました。
自分自身でもし吸引される立場だったらと考えるととても怖く、できればされたくないと思いました。患者自身も言えないだけで実はそう思っているのかもしれないということを忘れずに関わって行こうと思います。
実際に吸引を行うことはまだ実習をしていないのでイメージが湧きませんが、不安や怖いという感情はイメージできます。利用者をもっと不安だと思うので、分かりやすい説明と丁寧な対応と声掛けが必要だと思いました。吸引する前にその利用者の状態がどのようなものなのかの把握や普段の状態の把握をすること、また何かあった時に相談や連絡ができるようにしておかなければいけないと思いました。個々によって状態が違うので日々の観察は大切だと思います。
子供や高齢者に限らず、だれに対しても吸引を施行する際は、清潔な器具で無菌的に行うことが原則です。使用前には洗浄・消毒ができていないかを確認し、保管場所も適した場所であるかチェックしておく必要があります。鼻・口・気管などいずれの場合にもまずは患者への声掛けが重要だと思います。何も言わずに行くと相手に恐怖心を与え、今から何が起こるのかと不安にさせてしまうと思いました。そのため恐怖感を与えないようにするためにも声掛けをしていくことが望ましいと思います。
患者の状態変化を見て、清潔・不潔を考えて業務を行いたいと思います。
「吸引してあげる」という認識ではなく、「吸引させていただく」という意識を持ってケアを行うこと、清潔とは無菌状態のことを指し、いくらアルコール消毒をしても不潔であるということを知りました。これらのことを念頭に置いて現場でのケアに臨みたいです。
吸引に関して現場でのリアルなお話や、吸引する上でのメンタル、行う側とされる側のことなど気付けられる言葉もあり、大変良い講義でした。
人は誰でも間違えること、予防策を立て職員全員が理解して実行すること、患者の気持ちを理解し共感しながら吸引を行わなければならないことなど勉強になりました。
現場の状況に則した内容で、よく理解することができた。実際にたん吸引に携わるにあたり、重大な責任があることを感じた。
子供から高齢者の喀痰吸引について、丁寧にわかりやすくポイントを掴みながら教えていただきました。共通する部分が沢山あるので、幅広くたんの吸引ができるように頑張りたいと思います。
具体的な話をしていただいたので、理解しやすく勉強することができました。分かりやすくポイントをまとめていただき、専門的な内容を理解することができました。
経験もなく、講義を受けるだけでは不安に感じました。実践をしないと駄目だと思いました。
吸引する前にまず共感することが大切であり、自分も吸引を行う時には相手の気持ちを理解し、相手を不安な気持ちにさせないようにしっかりと知識を付けて自信を持って行おうと思いました。
吸引を行う際、私達看護師が怖がっていると、それが利用者にも伝わってしまうので、怖がらずに行うことが大切だと思います。
子供の吸引のやり方や抵抗がある時の対処法など多くのことを学べて良かったです。
吸引における危険について、もし間違いを犯してもそれをきちんと報告し、次に繋げることが大切だと思いました。
「滅菌」と「消毒」の違いは難しいと思いました。
吸引を行っていく上での注意点や心構えなどが理解できました。常に声掛けを忘れず、相手の気持ちになってケアが行えるよう心掛けていきたいです。
改めて清潔手順の大切さを感じました。
吸引を受ける利用者や家族の気持ちを理解し、共感することが大事である。また清潔と不潔の意識を常に持ち、感染予防に努めていこうと思った。

平成26年10月22日【5日目】

講義 I 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 木田雅彦

体内の仕組みを改めて勉強でき、どのような理由でどのようなことが体の中で起きているか理解でき、とても楽しく聞くことができました。
説明がわかりやすく、面白かったです。資料の図が多いのも良かったです。栄養学の話はもともと自分の苦手な分野だったので付いていけませんでした。
とても話し方が面白く、聞きやすかったです。消化器系の仕組みと働きは難しい内容ですが、興味を持って掘り下げて考えることができました。
消化器系の形態がどういった役割をしているのか全く知らなかったので勉強できて良かったです。
腸について知らなかったことを学べたので良かったです。
人体の構造をより詳しく教えていただいたので、今後患者に接していく中で疾病について十分理解をして業務にあたっていこうと思いました。
嚥下の過程と誤嚥についてよくわかりました。医学的な知識も最低限必要なもので、理解に努めたいと思います。
体内の仕組みや何故そういった機能を担っているのかなどを知ることで安全に喀痰吸引を行うことができると感じました。
人体の中には様々な機能があり、普段意識せずとも調整されていることなどが認識できました。
難しい内容でしたが、説明がわかりやすかったです。症状や原因を知っておくことで、異常があればすぐ看護師に報告できるようになりますし、誤嚥による肺炎なども防ぐことができるようになると思います。
難しい話を沢山聞いていたので、理解できなかった部分もありますが、話し方が分かりやすかったので楽しく聞くことができました。疑問に思うことが大切であり、大事なことを覚えるだけでは頭に入らないと思います。きちんとした理由があって疾患が起こっているということを理解しなければいけないと思います。誰でも誤嚥は起こりますが、私達はできるだけ利用者を起こさないよう注意しなければいけないと思います。
消化器系は一つ一つに大切な機能が備わっています。一つ欠けると機能が失われるので、体内で大変なことになりかねません。「誤嚥」にしても、食事介助が必要な患者に介助している時、本人が苦しそうな表情を見せているにも関わらずに次々に食べ物や口に入れるとご縁の確率が上がるのは当たり前です。食事を見て、食べ物だと理解していない人に促しても無理難題なもの間違いありません。しっかりと体内になる消化器系の形態・機能を理解しておくこと仕事面においても視野が広がると思います。
消化器系の仕組みなど、細胞レベルからお話いただき、大変勉強になりました。
誰でも誤嚥はあり得ることで、注意しても起きる時は起きると理解できた。その時に注意して十分に本人や家族にも理解してもらうことが大切だと感じた。
難しい内臓の勉強でしたが、とてもわかりやすく理解できました。基本的なことを知識として持っているということは、介護する側からすれば何よりも危険を回避することに繋がりますし、心強さにも繋がると感じます。また利用者にも安心感を与えて施行できると感じます。
声が大きくて講義内容もわかりやすく、先生の笑い声がとても面白かったのでこちらまで笑顔になってしまいました。内容は難しいと思う所があります。
消化器系の仕組みについての講義でわからなかったことも詳しい説明で学ぶことができました。経管栄養を行う際にしっかりとした知識を身に付けて行っていこうと思います。
誤嚥は嚥下の際に内容の一部が気管内に入ることを言うこと、咽頭で空気と食物が交差するので誰にでも起こることであるということを改めて知りました。
小さい文字で書かれている部分を勉強するのが面白いと仰っていましたが、私もその部分を知るのが好きです。興味深く、楽しく受講させていただきました。
消化器系の仕組みと働きをとてもわかりやすく説明されていて、嚥下で何故起きるのか、その過程などがよくわかりました。
一つ一つの言葉に力があり、またユーモアの溢れるお話でした。内容は難しい部分もありましたが、良い意味で楽しく聞くことができました。
消化器系の仕組みなど、大変わかりやすい説明で楽しく講義を受けることができました。
嚥下の過程や体の仕組みなど例え話も交えての講義だったので、楽しく学ぶことができました。
消化器系の仕組みや働きについて詳しく教えていただいたので、とても勉強になりました。

講義Ⅱ 慢性期医療における栄養サポートチームアプローチ 木田雅彦
胃ろうが良くないと言われている社会の流れの中で、今回の講義を受けて胃ろうは悪いことではないのだと感じた。
栄養の仕組みや評価と治療などについて勉強できて良かったです。
今回の講義内容を受けて胃ろうを繋いでいる利用者について少しだけ理解できたと思います。またどれくらいの栄養を保持できるようにしているかなども理解できたと思います。
ペース配分が守られていないのが気になったが、わかりやすかった。木田先生の施設は楽しそうだった。
講義は楽しく面白かったのですが、内容は難しくあまり頭に入ってきませんでした。
後半は時間もなくてゆっくり拝聴できなかったのが残念でした。栄養などについてももう少し色々お聞きしたかったです。
栄養については高齢者のみならず、私達の栄養についても勉強になりました。
経管栄養剤の注入トラブル・経管栄養法・サポートチームなどについて考えるきっかけになりました。
体重の増加や脱水症状のサイン等は日々の状態観察でも気をつけている部分なので、注意して様子を観察したいと思

います。
栄養と一口に言っても様々なものがあり、それぞれに働く機能も違う。それを理解する必要があると認識できました。介護士なので栄養などはあまり関係ないと思っていましたが、実際に食事介助を行うのは私達であり、患者の好き嫌いなどが分かり、どういふものでむせているのかもわかるので、関係があるのだと気がきました。今回学んだ情報を栄養士や看護師に報告していこうと思いました。
お話しがとても楽しかったです。時間の関係で詳しく内容を聞けませんでした。全体を通して理解できたと思います。「生きていたいなら経管栄養は有効であるが、誤嚥を予防できるわけではない」という言葉を頭に置いておかなければいけないと思いました。個人の状態によって注入量・測度があるので、注意して行わなければいけないと思います。
栄養サポートチームとは患者1人1人のニーズに合った形で向き合い、ADL・栄養管理・排泄などをしっかりとした形で管理するチームであると学びました。患者の食事摂取量が急激に減り、体重が激減したりした際には看護師に報告し、改善できるような対策を立てていく。脱水傾向にある患者の見方（口が乾燥している・血圧が高い・傾眠傾向であるなど）を注意してチェックしながら仕事をしていくことが非常に重要だと思いました。
栄養素のバランスの良い摂取の意味が理解できた。
講義中は理解できたつもりですが、いざ実行するとなると自信がないです。
栄養素について基本的なことですが、1日の摂取バランスなどをもう一度見直す良い機会になりました。
栄養に関して間違っている例なども話していただき、良い講義でした。
下痢の原因は多様であり、便秘の原因も多様である。また下痢で脱水が起こることなどを学べた。また栄養サポートは医療に携わる全ての職種でサポートするものであると理解した。
普段の生活にも必要な知識で勉強になる内容でした。先生のお人柄を知り、また講義を受けたいと思いました。難しい消化器系のことも簡潔に教えていただき、とてもわかりやすかったです。
栄養についてしっかりと学んで、健康について周囲の人にも自分が学んだことを伝えていこうと思いました。管理も大事だと学んだので、日常でも心がけたいと思います。
利用者によっては胃ろうを行う際、一度で入れても大丈夫な人と、そうでない人がいるので、1人1人違うことを理解した上で施行することが大切だと思った。
栄養サポートについて摂取方法・必要栄養など色々なことを学ぶことができて良い勉強となりました。
こうすればこうなるという流れがわかりやすく、理解しやすかったです。午後からは先生の講義がないのがとても残念です。
物事には何でも理由があるということがわかりました。覚えるより理解するということが大切であると思います。学習したことをベースに実践では機転が利くように頭を使っていこうと思いました。
職場で行われているNST活動や栄養に関することや、胃ろう増設を行うにあたっての流れなどを理解することができて良かったです。
今まで栄養のことなどあまり気にしていなかったのですが、これからは少しカロリーのことも考えて患者に接していきたいです。
栄養学はあまり馴染みがなく、難しかったです。
栄養補給法には経腸栄養法（消化管栄養法）と経静脈栄養法がある。嚥下障害者に胃ろうを造設しても1年以内に約40%が誤嚥関連で死亡してしまうため、誤嚥防止手術後に経管栄養法を導入すると非常に良好な結果が得られるということがわかりました。

講義Ⅲ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論2 池田友美
要点もその説明も具体的で分かりやすかった。内容も介護療養なのでとても身近なことでもよく理解できた。
経管栄養について細かく教えていただき、詳しくわかりました。体の異常と感染についても勉強になりました。
経管栄養による感染と予防について、患者は一般的に免疫力・体力が低下しているため、簡単に感染してしまう。こちら側で防げることも多くあるので、ケアをする時に十分気を付けたいと思いました。
「ここはよく理解していて欲しい」という所を強調して伝えていただいたので、頭の中で内容が整理しやすかった。
経管栄養の対応の仕方について勉強になりました。
利用者・家族にしっかりと声掛けをし、しっかりと同意をもらってから行うことが重要だと学びました。
介護をしている中で胃ろう利用者の周辺部を見ると「ただれている」「においがする」と思うことがあるため、講義を受けて「そのような理由があるからこうなっていたのか」と理解できました。
小児に対する経管栄養についてのポイント理解できた。
経管栄養時の注意点をゆっくりイメージできるように説明していただいて良かったです。自施設には経管栄養をされている方がいらっしゃらないので、今後何かあれば気を付けて今回の学びを役立てたいと思います。
テキストを使用しながらの分かりやすい講義でした。スピードも速すぎず理解しやすかったです。
器具の清潔保持や相手の羞恥心に配慮した対応など、基本的なことを忠実にすることが適切で安全な経管栄養の対応を行う上で重要だと思いました。
誤嚥性肺炎や消化器の感染には様々な要因があり、管理の仕方にも注意を払うことが大事だと認識できました。実施する場合も家族や本人との信頼関係が大事だと思いました。
トラブルの内容をよく覚えておき、患者と関わる際はよく観察し、何かあればすぐ報告すること。慌てずに行動でき

るようになっておかなければいけないと思いました。
経管栄養により起こり得るトラブルの対応について分かりました。経管栄養は特別なものではなく、食事であるということをお頭において実施し、また本人や家族の了解と同意を得てから行うことが大切だとわかりました。何かあった場合はすぐに報告・相談ができるようにしたいと思います。またいつもと違うことにも気付けるように日々観察が必要だと思います。危険防止のために医師・看護職員との連携体制を整えて話し合える環境作りをしていけたらと思いました。
経管栄養において必ず施行する時は「声掛け」が重要であると再認識しました。何も言わずに突然行くとびっくりさせたり、怒らせてしまうケースも考えられます。そして介護職員が喀痰吸引・経管栄養をするにあたって「胃ろう部から血が出ている」「嘔吐をした」などといったことが起こった場合はただちに看護師・医師に連絡することが大切だと思います。自分一人で対応しようとすると、かえって失敗して大変なことになるかねないので、「連絡は直ちにずる」「異変を素早く見つける」といったことを徹底したいです。
経管栄養を注入することだけに集中せず、本人と家族の同意をもらうことを忘れないようにする。胃ろう部の周りや経鼻の周り、口腔内や気管などにも注意して観察しなければいけないと思いました。
経管栄養の注意点と家族との関わり方などについて詳しく説明されていて良かったです。
スライドを中心に説明されていたが、手元にはテキストしかないので理解しづらかった。手元にスライドの資料があると話が聞きやすくなったと思います。
常に利用者と家族への同意と説明を行うことの重要性が学びました。
テキストの中でも特に経管栄養に関して注意すべき点を分かりやすく話していただき、良かったです。
経管栄養を受ける患者の気持ちとそれに対する対応を、事例なども交えて分かりやすく話していただき、勉強になりました。
経管栄養を行っている人は免疫力が低下していることが多いので、簡単に感染してしまう恐れがあるので清潔や衛生面に気を付ける必要があることを学んだ。
一番大事な所を教えていただき、よく理解できました。喀痰吸引や経管栄養の注入に関する重要なポイントを理解することは事故にならないためにも必ず守らなければいけないと再確認しました。
試験に出そうなところを教えていただけましたが、よく読まないポイントを見落としてしまいそうだと思います。
口腔ケアの清潔もとても大切なことだと思います。きちんとケアをすることで感染も防げるので、予防をしっかりとしていきたいと思いました。説明や同意を確認できる信頼関係を患者や家族と築いていけるような関係作りをしていこうと思います。
経管栄養時、嘔吐やしゃっくりをしたら直ちに注入を中止しなければいけないと分かった。また腹部膨満感は注入速度をゆっくり行えば良いということも分かった。
子供などに対する経管栄養についてとても理解しやすかったです。
経管栄養時の留意点を把握し、トラブルに対応できるよう理解が必要だと思いました。
在宅は経験がないのですが、何事にも同意と伝える気持ちを持って接していくことが大切なのだと思います。
テキストに沿っての講義で、要点もまとめて話されていたのでとても聞きやすかったです。
経管栄養を受ける入所者や家族の気持ちを理解し、声掛けを行って安心感や同意を得るということの大切さを学ぶことができました。食事を摂っていないくても、口腔内の清潔ケアをきちんと行うことも大切であると分かりました。

講義Ⅳ 喀痰吸引・経管栄養に必要なケア 藤本浩子
日々の業務に対してもう一度しっかりと考えて正確に行っていきたいと思いました。
たんを出しやすくするには日頃から水分補給や湿度調整などのケアが大事だと改めて思いました。
たんを出しやすくするケアについて、3つの条件(重力・たんの粘性・空気の量と速さ)を学んだ。たんを移動させ、適度な湿り気が必要であり、空気の量と速さはせきの力であることなど勉強になった。介護士はこの力を保てるようなケアが重要であると分かった。たんで苦しんでいる人にどのような体勢にしたら楽になるのか、意識と観察を行いながらケアをしていきたいと思う。
ケアの手順と方法が学べて良かったです。
喀痰吸引の際はたんが溜まっている方を上にすることを学びました。
経管栄養をしている利用者には口腔ケアをしないと肺炎や口臭に繋がると分かったので、そのことを把握しつつ、自分がされて嫌なことはしないようにケアをしていかなければいけないと思いました。
たんを出しやすい体位があることを初めて知りました。
どんな介護でもそうですが、「自分がされて嫌なことはしない」ということを心掛けて業務を行うことが大切だと思います。
実際の業務において、患者に精神的に苦痛を与えてしまっているかもしれないということを知り、今後の業務では意識していきたいと思いました。
たんの固さやたんを出しやすくする体位などその都度の判断でスムーズなたんの吸引を行うことができるので、「たんが溜まっている方を上にした姿勢」「同一の姿勢を長時間続けない」ということを意識しながら実践していきたいと思います。
吸引時の体位は対象となる利用者に合わせて様々な体位を実施するものであると認識しました。体位1つでも利用者が不快に思ったり、安心して吸引を受けられる体勢が必要だと思います。
決められた時間に体交するだけでなく、どこにたんが溜まっているのか確認し、体交することが大切だと分かりました。患者の立場に立って考え、体の痛みだけでなく精神的な苦痛も和らげられるよう接していこうと思います。

<p>たんが排出しやすくなる体位と姿勢を知った上でケアを行う必要があると思いました。また口腔ケアは口腔内にある様々な菌を取り除き、感染予防にも繋がるので、重要なことだと思います。胃ろう部も夏場・冬場で問題点が違うので、入浴などで清潔を保ちながらケアを行うよう心掛けたいと思いました。また何か皮膚トラブルなどがあれば、すぐに看護師に報告できるよう観察しなければいけないと感じました。</p>
<p>口腔ケアは非常に大切なケアであると感じました。食後にはセルフケアとして口腔ケアを施行するのが基本ですが、義歯の方に関してはその都度外して洗うという形を取っています。またたんが溜まっていて臥床中の場合にはたんが出やすいように体位交換をしっかりすることは褥瘡予防にも繋がる大切なケアだと思います。さらに何をすることも、患者への声掛けを忘れないようにしようと思いました。</p>
<p>体位交換の仕方です。たんが溜まりやすくなるとは知らなかったです。勉強になりました。</p>
<p>口腔ケアと鼻のケアの重要性がよく分かった。体位ドレナージも十分に活用していく必要があると感じた。</p>
<p>口腔ケアの重要性について理解できて良かったです。いつも何気なくしている口腔ケアの意味をしっかりと皆に伝達していきたいと思います。</p>
<p>重要な所が資料にしっかりとまとまっていて分かりやすかったです。</p>
<p>介護職として口腔内の清潔や体位への配慮が普段からできることが大切だということが理解できました。現場で活かしたいと思います。</p>
<p>分かりやすく理解できた。他領域の講座でも行った内容もあるのであわせて覚えたい。</p>
<p>たんの溜まる部位によって体位交換の姿勢も様々であるということを知りました。吸引を行わなくても良いように、まずはたんを患者自身が出せるようなケアに努めたいと思います。</p>
<p>人はずっと同じ体位にいることに身体的にも精神的にも苦痛を感じるため、体位を整える必要があることを学んだ。</p>
<p>喀痰吸引・経管栄養はただ施行すれば良いという訳ではないことが分かり、他にしなくてはいけないことが沢山あると知ったので、しっかりと学習して対応したいと思いました。</p>
<p>たんの粘性の関係でたんには適度な湿性が必要であると分かった。体内の水分が不足すると気道粘膜も同様に固くなるため、体内バランスを整えることや観察することが大事だと分かった。</p>
<p>体内の水分が不足すると気道内粘膜も同様に乾燥するため、たんが固くなることもあるため、体液のバランスを整える必要があると分かった。</p>
<p>たんを出しやすくするケアについて学んだことを実践でも活かせるようにしていきたい。</p>
<p>口腔ケアについて先生ご自身の話も交えて講義していただきました。</p>
<p>利用者への的確な吸引ができるように学習を続けたいと思いました。</p>
<p>一番身近に関わる口腔ケアとたんのことについての講義だったので、勉強になりました。</p>
<p>たんを出しやすくするケアには3つの条件があり、体液バランスと体内の水分量を整え、適度な湿性を保つ必要性を学ぶことができました。</p>

<p>講義Ⅴ 慢性期医療におけるリハビリテーション介護 橋本康子</p>
<p>実習がとても難しかったです。施設に基本を実践できる患者がいないため、普段の介助に応用できるか分かりません。</p>
<p>リハビリの必要性和チームワークの必要性を学びました。レストランでのメニューから選んだ食事を自分でカロリー計算できるのはとても良いケアだと思います。施設内でIADL(手段的日常生活動作)を向上できるように支援したいと思います。</p>
<p>自分の介護を見直すこと介助のし過ぎだと思いました。ADLが向上できる介助をしなければならないと思いました。</p>
<p>介助する側がやりやすい方法で行うと、介助される側は移動しにくいということがよく理解でき、勉強になりました。</p>
<p>介護士は仕事をしていく中で腰痛と言った病気がつきまとうため、介助する際には利用者の残存機能を十分に使うことが自分自身の身を守るためにもなると気付きました。</p>
<p>重心移動の大切さを改めて認識する機会となりました。</p>
<p>リハビリの勉強もしてみたいと思いました。もっと介護・リハ・看護の関係を密にしていきたいです。</p>
<p>今のリハビリの現状と患者が自分で靴を履くことや服を着ること、洗顔することの意味を知り、とても刺激になりました。自施設でもリハ担当者話し合い、実践していければと思います。</p>
<p>日々の生活でリハビリとして行えることが多いので、介助としてとらえるのではなく、生活リハとして取り組みたいと思いました。</p>
<p>高齢者は機能の回復は難しいですが、今ある能力を継続できるよう、自助能力を意識したケアを行わなければいけないと思いました。</p>
<p>これからのリハビリは単にリハビリ室や居室でリハビリをするのではなく、日中の動作1つ1つにアプローチを組み込み、障害者や高齢者であっても日常生活動作を少しずつでも行っていくことが大事だと感じました。</p>
<p>何でも介助をしてしまうのではなく、できるだけ自分自身でできることはしてもらおうというのが大事だと分かりました。そのためにもまずは利用者のモチベーションを上げていけるように関わって行くことが大切だと思います。上手く患者に立ってもらおうのは難しいと思いました。</p>
<p>リハビリは手を動かしたりするだけがリハビリではなく、排泄や入浴することも含めたものがリハビリであると知りました。生活動作に重点を置いたもので、チームで実践するものであると知りました。また私達が行うべきリハビリテーションを介護だけでなく、チームで協力して行えるようにしたいと思います。</p>

なるべく日中は利用者を起こして廃用性症候群の予防治療に努め、本人の意欲の向上が行えたらと思います。これからはチーム医療なので他職種が協力し、情報交換ができるような環境を作っていけたら良いなと思いました。
日々利用者のADL向上のため、食事・排泄・歩行・立ち上がりなど色々なリハビリがありますが、全ての職員で1人1人を助けていくこと。すなわちチームアプローチが重要だと思いました。職員と利用者が一緒に食べるというのは色々な面で良いことだと思います。コミュニケーション能力や食事摂取能力、ADLを保つためにも適していると思います。できないことは少しずつできるように介助して助けていく。そうすればいつしかできるようになるかもしれません。一日一日の積み重ねが花を咲かす結果になるのだと思いました。
現在のリハビリテーションの考え方や技術を学べて良かったです。
移乗動作の演習なども行えて有意義な講義でした。
介護に役立てることが沢山あり、勉強になりました。
積極的なリハビリテーションの報告を見て参考にりました。実践の介助方法もとても役に立ちます。
生活の中でのリハビリの重要性を改めて理解できた。トランス移乗については日頃よりエビデンスに基づく動作を心掛けているので、引き続き双方が楽に動作できるようなケアを行っていきたい。
介護の移乗技術の基本を教えていただけました。先生の病院に研修に行きたいと思いました。
今日の移乗を日々の生活に自分なりに取り入れていきたいと思いました。
和式で上履きにして生活をするという先生の病院は素晴らしいと思いました。自分の家で生活するように過ごしていただけるように生活に寄り添ったケアを行っていきたいと思いました。
リハビリなど他の施設の方と意見交換する時間もあり、とても良い講義でした。
「リハビリテーションの考え方は、人が人間らしく生きる権利を回復すること」「健康でその人らしくあることが大切」という言葉がとても印象に残り、大事にしていきたいと思いました。
リハビリをする環境が充実しており、患者にとっても良い環境だと思います。介護をしていく中で、利用者が自分でできるリハビリは利用者の方にさせていただくようにしていきたいです。
生活全般においてリハビリの必要性があるということが再認識できた。今回学んだ介助技術を今後の業務に取り入れていきたい。
先生の病院内の施設のこだわりや風景や取り組みなど素晴らしいと思いました。
リハビリテーションが現在かなり重要視されていることが分かりました。今の立場でできることを、コミュニケーションを取りながらやってみようと思いました。
リハビリテーション医療は多職種で連携してADL向上を目指していくことが大事である。実際に実習で立位介助の仕方など試みて、すごく難しいと思いました。これからしっかりと技術を身に付けて利用者の方が楽な姿勢でできるようにしようと思いました。
立位の仕方でも工夫をすれば上手に利用者を立たせることができると分かりました。
実践にて最後に立ち上がり方の介助方法を学ぶことができ良かったです。
リハビリの実技が良かったです。理由を考えればなるほどと思いました。
リハビリの実技で利用者に負担をかけない移動は大変だと思いました。今後は負担の内容に気を付けたいです。
少しの力のコツで介助者と利用者が楽な動作となることが分かり良かったです。
基本の知識を頭に入れ、生活リハを取り入れたケアができるよう日々努めていきたいと思いました。
廃用性症候群の「起立性低血圧」はよく使うのですが、血圧を上げる機能が働かなくなるとは知りませんでした。良い勉強になりました。
介護実践を交えての講義で大変勉強になりました。練習して実践できるようになりたいと思います。
廃用性症候群とは体のバランス力の低下のほかに見当識障害や記憶障害、五感などの感覚低下などもあるため、気を付けなければいけない。実際に立位や移乗動作のデモを練習することができて勉強になりました。
「日常生活＝リハビリ」という言葉を聞いてすごく納得しましたし、勉強になりました。

平成26年10月23日【6日目】

講義Ⅰ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説1 脇山千鶴
実際に物を見て触ることができてとてもわかりやすかったです。
実際に手で触れて感覚などを知ることができました。説明も具体的でわかりやすかったです。
器具・器材の説明ができるようになる必要性を知ることができて良かったです。
喀痰吸引で使う器具・器材を清潔にする方法を学びました。
今回の講義内容を受けてみて、吸引時には色々な物品を使用することや、常に清潔でない利用者自身に感染させてしまうため十分に注意しなければいけないと思いました。
以前に医療介護福祉士認定講座で習ったことを思い出しながら実践した。吸引の大事さと大変さを再認識した。
話を聞くだけではなかなか難しかったですが、講義の合間に出てくる動物たちの写真に癒されました。
留意点をわかりやすく教えていただき、実際に行うことで頭に入れることができました。
実際に器具を見て触ることができ、器具の仕組みなどもイメージしやすかったです。
吸引の機械に触るのは初めてで、どのような流れで吸引を行っているのか知ることができ、チューブの取り扱いにも注意が必要だと認識しました。

人形で体験してみても難しく、実際の患者の場合は動いたり、口があまり開かない方もいるので、本当に難しいと思いました。しっかりと覚えて経験を積むことが大切だと思いました。
初めて吸引チューブや吸引器などを触りました。看護師がしているのは何度も見たことがありましたが、自分でいざやってみると難しかったです。感覚を掴むには見るだけでなく、やってみないと分からないと感じました。鼻腔内は見えないので怖いと思いました。
実際に器具などを見て経験させていただきましたが、思っていたよりも難しく、文章を見て覚えるよりも実際に器具を触った方が覚えられそうだと思います。
最終的に行き着くのは「人」なので、ちゃんとした知識と信頼感と技術を要します。そのためにも少しずつ知識を付けていきたいと思います。これからの人生においても吸引を要する場面がいくつもあるかもしれないので、しっかり身に付けたいです。
喀痰吸引の際に必要な物品の説明など覚えなければいけないことが多く感じた。
吸引に必要な物品や使用方法など分かりやすく理解することができました。
吸引用具を自由に触れさせていただいたので、実習への不安が少し軽くなって良かったです。
器具の扱い方や清潔・不潔の手技など勉強になりました。
機器の名称が理解できた。留意点は他領域で学んだことに類似しているが、手技については座学と実際とではイメージが異なる点が多々あったので実践できて良かったです。
楽しく体で覚えて感じるということの大切さを知り、自分の癖を把握することが大事だと理解しました。
吸引器具を実際に触れ、より清潔・不潔に対する意識とむずかしさが分かりました。
実際に人形と吸引器を触ってみて、チューブが扱いにくかったり、清潔不潔の区別が難しいと思いました。
実際の器具を使用でき、演習のイメージができました。
滅菌は全ての微生物を殺滅することであり、消毒は病原性の微生物を殺滅または弱くすること、洗浄は付着している有機物や汚れを除去することであるなど、違いを学べた。その時々に応じて対応できるようにしたい。
喀痰吸引はしたことがないので、手順を学び自信を持ってたんの吸引ができるようにしたい。
講義で知識を付けてから実際に体験できて良かったです。講義から体験までの順序が効率的で満足できる講義でした。
具体的な内容で緊張しましたが、ポイントを教えていただき良かったです。
実技は経験がないので不安だらけですが、フレンドリーな先生でとても分かりやすかったです。
講義を聞いて必要物品に実際に触れてみると、思っていた感じと違っていたので、しっかりと知識を付けようと思いました。
本物の器具を使ったのでよく分かった。また吸引する時にどんな感覚なのか体験できたので良かった。
たん吸引の実践方法を実習することができ、大変良い勉強となりました。
喀痰吸引の手順や機器の説明など分かりやすく理解できました。
実際に機器を見て触ることで実感が湧きました。手順を実際に覚えて行うことができるか不安です。
実技を交えながら1つ1つ丁寧に教えていただき、理解できました。
実際に吸引器を見て使ってみることで、吸引器や器材の使い方や仕組みについてよく理解できました。
自分がこれから吸引はやらなくてはいけないのだという思いで講義を聞いていました。
吸引の手順や基礎を分かりやすく学べました。
普段自分の働いている施設では看護師しか吸引器に触れないため、目にすることはあっても役割や仕組みについては知らないことが多かったので勉強になりました。

講義Ⅱ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説2 脇山千鶴
実際にやってみると、頭では分かっているけど上手く動けないなど様々なことが分かりました。自信を持って行えるように頑張りたいと思います。
実際にシミュレーターで実施することで、手順を理解することができました。
知れば知るほど複雑に難しく考えてしまっている自分がいた。大事な所をしっかり押さえていくよう心掛ける。
講義だけでなく、実際に触ってみると難しさを感じられて良かったです。
実技を少し行いましたが、上手くできませんでした。実習でしっかりできるようになりたいです。
準備をしっかりしておかないと、問題や急なアクシデントが起こったりした際に慌ててしまうため、十分に準備をしておかなければいけないということが分かりました。
命にかかわる行為のため、一つ一つの手順を踏まえることの重大さを改めて感じました。
いざ実技となると、手袋や消毒綿や動作がわからなくなりました。講義中に頭に描いていたこととは違う状況になったので、しっかりとやり方を身に付けたいと思います。
実施前に確認できる機会を設けていただくととても助かります。しっかりと学び、実施に挑みたいです。
安全な処置を行うために多くの手順があり、繰り返しシミュレーションを行う必要があると思いました。
吸引器の手順には時々どちらが先だったか、接続部はどう持てば良いのか悩む所がありました。
説明を受けてもいざとなるとどのタイミングで行えば良いのか分からなくなり、これから人間相手にすることを思うと怖いと思いました。よく覚えて行っていかなければいけないと思いました。
見ている時はできそうだと思いますが、実際きちんと順番通りに行おうと思うと分からなくなり、置き場所も「ど

ここに置いてはいけない」「ここに置いたら良い」ということが分かりました。難しいですが、きちんとした手順で行えるよう頑張りたいと思います。
喀痰吸引は文章を見ただけでは、実際に行うことは困難です。手順・方法・清潔不潔などをわきまえた上で行わないと、吸引される側は驚いてしまいますし、「怪我をしないか」「本当に大丈夫なのか」と不安な気持ちが募ります。だからこそ、喀痰吸引の知識をしっかりと習得した上で利用者に施行する権利が得られるのだと感じました。患者のニーズに合わせ、看護の方々と協力し、連携した作業をこなすことが重要だと思いました。
人形への吸引にあたって手順をよく理解しておくことは大事だと感じた。なお人形の数が少ないのでなかなか順番が回って来なくて困りました。
吸引の方法でわからないことを質問でき、先生がお手本を見せてくれて良かったです。
先生がずっと付いて指導していただいて良かったです。紙だけでは不十分な所があると思いました。
実際に手順通りの吸引を実施し、物品も見ることができて良かったです。
いまいち行動がごちなく、スムーズに行えず難しいです。
吸引前後の手洗いや手指消毒は重要であり、指示の通りに吸引圧とカテーテルの深さを守ることが大切である。1回の吸入で取りきれない時は無理をしないと学びました。
実際に手順の通りにするのは、最初は難しいが、しないと大変なことになりますし、何回も練習して覚えていこうと思いました。
吸引時1回の吸引で十分に取りきれない時は、無理をせずに看護職員に委ねれば良いということが分かった。
実践的なたんの吸引の講習をしていただけたので、良い勉強となった。
いつも看護師がしているのを見ているのですが、いざ自分がやってみると難しく手順も忘れてしまいます。しっかりと覚えて帰りたいと思います。
吸引器を実際に手に取って使ってみると、見ている時はそれほどでもなかったが、実際に行ってみると大変難しかったです。
聞いて覚えるのとは違い、実際に吸引器に触れながら手順通りに行くと難しく、1つ1つの動作の重要性について再認識することができました。

講義Ⅲ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説3 脇山千鶴
テストを通して今の自分の理解度を知ることができました。
テストをしてみて、曖昧にしか理解していない所があったので、しっかり覚えようと思います。
テストで自分の苦手だった箇所の確認ができました。
まとめとして大事な要点を教えていただいたので、しっかり復習しておきます。
問題をやってみて理解していない所があり、勉強になりました。
試験問題と練習のプリントは復習のために持ち帰れると良かったです。
小テストを受けることで、実際のテストの緊張感を持って、何問正解しなければいけないかなども感じる事ができたので、明日に繋がればと感じました。
面白かったです。テストは問題と回答が混乱しましたが、実際のテストがこんな感じで出るとわかり、少し安心できました。
模擬試験のようなテスト形式ができて、今の自身の知識の習得率が把握できました。
午前中の復習と同じことや大切な所を何度も言うていただき、テスト問題をすることで改めてポイントがよく分かりました。
自分の考え方を理解できて良かったと思います。
9割の点を取ることができなかったので、復習の必要があると思いました。
自分がどれだけできているのか、改めてどこを勉強すべきなのか分かりました。
テストの問題が自分の思っていた答えと違ってたりしたので、よく分からなかったが、問題を解いた後にきちんと読み直して考えれば理解できるかなと思います。間違った所をもう一度見直し、きちんとした知識で行えるようにしたいと思いました。
この講義では小テストをしましたが、やはり難しいです。よく考えた上であの結果では、まだ知識が不足しているのかもしれないと思いました。しっかりと一つ一つ学習していかなければいけないと思いました。
手順に関しては3講義目の解説でほぼ理解できたが、実際の注意点や実技に関しては難しいだろうと感じた。
実際にテストをしてみて、自分が勘違いしていることが意外とあったので、正しく理解しなければいけないと思いました。
器具の消毒方法や次亜塩素酸ナトリウムを長時間漬けたままにしないことなどが分かりました。ミルトンの場合、洗浄は必要ないが乾燥させる必要があり、自己判断をしてはいけないということも勉強になりました。
テスト問題にトラブルがあり、きちんとした正解を知ることができず、あやふやなまま終わってしまったのが残念です。
手順通り教えていただいたが、実際に触れると手順通りにいかず難しかった。
今日の吸引の講義や実習を通して学んだことをしっかりと活かしていけるように実施で頑張ろうと思いました。
アルコール器具などを消毒する場合は「浸漬」という方法が最も効果的で、これはアルコールのプールの中に器具全体が沈むようにして10分間漬けて置きするというのを学んだ。

最後に試験形式の問題が出て大変なためになりました。
最後まで解答を知りたかったです。
模擬試験をしていただき、自分の間違いを再確認することができました。
模擬試験を実際に解いてみて、自分がどこを理解していないかを再確認することができました。できなかった所ももう一度見直したいと思います。

講義Ⅳ 高齢者および障害児・者の経管栄養手順解説 1 渡邊幸子
当施設は経管栄養の方がほとんどなのでもう一度、一から手順を学び、安全な業務ができるようにしていきたいと思います。
職場ではよく見る物品や消毒にも1つ1つ確認や方法が大事だと思った。
普段は見るだけで名称などは何も知らなかったのでよく理解することができました。
経管栄養の内容を少しでも理解できて良かったです。
少し実技をしました、上手くできなかったので頑張りたいです。器具の名称もきちんと覚えていきたいです。
経管栄養の準備物などは絶対に清潔にしないといけないというも感じられましたし、実際に以前の施設でも間違った消毒法などをしていたので、気を付けて行わないと思いました。
経管栄養の器具について手順など理解できました。
シミュレータを使用した講義で分かりやすかったです。
注入前の準備や注入時の患者の様子観察など気を付けないといけない部分が多々ありますので、資料とテキストを読み返し、安全な注入ができるようにしたいです。
PEG 実施者には普段から皮膚の状態などに注意し、観察と報告をすることを忘れないようにします。
経管栄養をしている患者ははとでも多いのでよく見えています、ボタン式の胃ろうは見たことがないので勉強になりました。胃ろう部のろう孔周辺は入浴介助や衣類交換時によく観察し、異常があればすぐ報告できるようにします。
経管栄養は見たことがあり、触ったこともあります、ボタン式の胃ろうは初めて見ました。看護師が注入や物品消毒をしているのを見たことはありましたが、実際に自分達で行ったことはないで少し不安です。触ってみたいと分からないことだらけだと思いました。
経管栄養の方は長い間、口からの栄養摂取が困難になり、本人や家族の許可の元でこうなったのだと知りました。胃ろう自体はそれほど特別なことではなく、ただ食事を食べることができなくなり、口以外の場所から注入しなければならないということだと思います。喀痰吸引・気管カニューレ・経管栄養など全てに様々な知識が必要なため、しっかりと習得したいです。
経管・経鼻についてもう少し詳しく知りたいです。
経管栄養の実施を行って良かったです。
いざやってみると混乱してしまいました。手順が頭に入っていないとできないと思いました。
手技については実際に数こなさないと難しい。
必要な手順の大まかな流れは分かったと思います。
本を読めば納得できていると思いましたが、いざ行くと難しかったです。
手順を細かく教えていただいたので、大変分かりやすかった。利用者への声かけと様子観察を第一に取り組みたいと思います。
注意点など実施に関する事を分かりやすく説明していただき、大変分かりやすい講義でした。
RTH方式(吊り下げ式)経腸栄養剤の利点は「細菌汚染されない・容器へ移し替える手間がない・容器を洗浄せずにそのまま廃棄できる」ことであると学んだ。また欠点としては「投与量が調節しにくい、容量の異なる2タイプが必要となる」ことなどが分かった。
注意事項を詳しく教えていただけたので、演習の時は気を付けようと思った。
知識を詰めてからシミュレータ演習ができて良かったです。おかげで手順も楽しく理解できました。
少しの見落としや観察不足がインシデント・アクシデントに繋がるということを頭に置き、きちんとした手順を覚えようと思っています。何度もシミュレーションをして、演習できたらと思っています。分かりやすく教えていただきました。
実技は経験がなく不安です。理解することがなかなかできず、覚えることが難しいです。
経管栄養について知らないことも多かったですが、実際に見たり触ったりして説明を聞いて、しっかりと知識を身に付けていきたいと思いました。また感染の予防するために口腔ケアもとても大事だと思いました。
歯磨きが口腔ケアは胃ろうをしている方にも大切なことだと思った。また口腔粘膜も圧をかけると血液の循環が良くなるため、圧をかけることが重要だと分かった。
経管栄養を入れる際の留意点を知ることができて良かったです。
経管栄養の行い方や詳しい手順を学びました。試験に受かるためにも頑張りたいです。
実際に行って手順をしっかりと身に付けていきたいと思いました。
経管栄養の必要物品の名称と実施方法を分かりやすく教えていただき、よく理解することができました。
直接体に入るものを使用すると思うと、話を聞いているだけでドキドキしてしまいます。器具の名前などもよく知らなかったので勉強になりました。
医療器具の名称や経管栄養などの手順について色々学ぶことが沢山ありました。患者に接する大事な部分なのでより勉強しなければと思いました。

実際にイルリガートルやカテーテルチップシリンジ等の物品に触れながら、実施手順の流れや必要物品の清潔保持の方法を理解することができました。
経管栄養の基本をととても丁寧に教えていただいたので、演習に活かそうだと思いました。

講義Ⅴ 高齢者および障害児・者の経管栄養手順解説2 渡邊幸子
実習を通してとても分かりやすく勉強することができました。
経管栄養を実施してみましたが、とても難しかったです。
注入速度の感覚が難しかったです。順序などもしっかりと復習しておきます。
実際に触って行ってみると、難しさを感じる事ができて良かったです。
ささいな異常でも医師や看護師に報告していきたいです。
滴下を、時計を見て合わせるのが思っていたよりも大変難しかったです。
実際に胃ろうをされている利用者の腹部の辺りがただれていたり悪臭があるのを見て、「何故こんなことになっているのだろう」と考えることがあったので、今回の講義を受けて少しだけ理解できたと思います。
手技の実演が遠くて見えなかったです。また実際に行ってみて注入は難しいと思いました。
経管栄養の実施手順の要点が理解できた。
滴下させるスピードとタイミングが難しく、長く時間がかかってしまいました。
実際に触れてみて行ってみると難しかったです。
液量に対して何秒で何滴を滴下するのが難しかった。手順は実際に行ってみてイメージすることができた。
頭で手順を分かっているだけでは意味がないと思うので、何度も繰り返してできるようになりたいと思います。
実際に器材を使いましたが、手順も大事ですが、患者への声かけも大切だと思いました。
経管栄養の患者もしっかりとした食事と声掛けが必要であるとわかりました。たとえ意識がなくても接することが大事だと思いました。
ちょっとした異変でも気付いて看護師に報告し、それが結果的に何事もなかった場合でも後悔しなくて済むと思った。またすぐ気付けるよう、常に患者と関わる際にはよく観察することが大切だと思った。
経管栄養を流したことはありますが、滴下を合わせたことはなかったので、難しいと思いました。またシリンジを片手で引いたこともなかったので、やってみて難しいと思いました。利用者の観察も忘れずに頑張っていかなければいけないと思います。
実際に経管栄養の一連の流れを確認しましたが、まだ理解できていません。注入のスピードを考え、患者の表情を確かめつつ声をかけながら、いくつかの作業が連なっているので、どこに意識を向けなければいけないのか分からない時がいくつもありました。
経管栄養の手順と口腔ケアの重要性について学びました。手順をしっかり覚えてほしいです。
演習を受けて使用方法などがよく分かった。
カテーテルチップを吸うのと滴下を合わせるのが難しかったです。
実際に使用してみると実感が湧きました。
実際に行ってみると、頭では理解できていても難しかったです。
経管栄養の実施は利用者の体力を消耗するため、気分を楽に保てるように労いの声をかけ、環境を整えることが大切だと思います。
経管栄養の流れを勉強したが、実際にできるか不安です。
実際に器具に触れることで内容がよく理解できました。
実際の現場で事故が起きないようにしっかり勉強したいと思いました。普段の状態を把握することの大切さも分かりました。
観察はとても大事で、必ずいつもと何か違う時は看護師や医師に報告することが大切だと思った。しっかりと手順を覚え、確実にできるようにしたいです。
クレンメを開きながら指示通りの滴下数に合わせるのが難しかったです。
実践を行うことで手順を本格的に覚えることができ、とても勉強になりました。
経管栄養実施を手順通りに行いました。実際はとても難しかったので、手順に慣れるように頑張りたいです。
1つのことばかりを気にして、他のことを観察できていませんでした。手元以外にも観察できるようにしたいと思います。
実践しながらの講義で大変分かりやすかったです。
滴下やチューブを繋いでみたりしましたが、やはり難しいです。
実践を通しての講義で、目で見ながら学ぶことができとても良かったです。
経管栄養実施の手順と留意点について、実際に物品に触れながら行いましたが、テキストを見ながらでないと行えなかったもので、手順をしっかり頭に入れてできるように勉強したいと思います。
実際に経管栄養実施をしているところを見学したのですが、触ってみないと分からないと思いました。

平成26年10月24日【7日目】

講義 I 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説3 渡邊幸子
報告と記録の重要性を改めて実感しました。今後の仕事に活かしていきたいです。
手順は何となく分かったが、実際に自分で行うことに不安を感じる。
先生の手本を見せていただき、安全かつスムーズなやり方を見ることができて良かったです。
報告と連絡方法について学びました。日頃からメモを取って作業をすることが証拠にもなるので、気を付けたいと思います。
経管栄養をされている方の口腔ケアの大切さを学べて良かったです。
口から食事をしない人は1日3～4回以上の口腔ケアが望ましいことを知りました。
胃ろう患者の口腔ケアの大切さや、医行為を行った後には必ず看護師に報告をしなければいけないと思いました。また行為を行う際は気を付けて対応しなくてはいけないと思いました。
喀痰吸引と経管栄養の報告と記録について理解ができた。
実技ではしっかりと声掛けと確認をしたいと思います。
シミュレータを使用し、手順の説明をしていただけて分かりやすかったです。
定期的に口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎の防止に努めたいと思います。またシミュレータでの経管栄養の手順の確認ができました。操作手順も重要ですが、途中の状態観察や声掛けにも気を配りながら接していく必要があると思いました。
報告と連絡がいかに大切であり、常にチームアプローチが重要であると再認識しました。
誰が見ても分かるように記録を書くのは大変だと思うし、経験を積むことが大切だと思います。意識障害などがある方は、自分から訴えることができないので、観察を多くして変化に気付けるようにします。
インシデント・アクシデントレポートやカルテなどの記録と報告を書いたことはありますが、誰が見ても分かるような報告をしなければいけないと再認識しました。手順も普段看護師がやっているのを何気なく見ていただけだったので、いざ自分がする時にきちんとできるか不安です。
今まで勉強してきた内容のまとめでしたが、やはりまだ難しいです。声掛けをすることや注入スピードの調整などを正しい手順と方法で行っていくよう心掛けたいです。途中で混合してしまい、分からなくなることもあるので、もう少し知識を身に付け、本番でも違和感のないような経管栄養の実施を行えるよう努めていきたいと思います。
実施前にしっかり手順を読んでおきたいと思います。
実際にデモンストレーションをしたり、物品に触ることができて良かったです。
手順や声掛けなど細かい所まで指導していただけて良かったです。
手技と留意点については研修後も自施設で再度見直していきたいです。
分かりやすく手順の再確認ができたが、実際に行う場合は手順を飛ばしてしまう可能性が高いと思いました。
経管栄養時の利用者の観察の必要性和声掛けの大切さを再確認できました。
頭では理解できているつもりですが、実際に行う時にできるか不安です。
昨日に引き続き手順を細かく教えていただいたので、実際に行う際に何に注意すれば良いかよく分かりました。
経管栄養に関する手順などを大変分かりやすく説明していただき良かったです。
1人の利用者に対して仕事の変更ごとに石鹸と流水による手洗い実施を徹底することを心掛けます。
手順が多く難しいと思います。まだ分かっていないことが沢山あるように思います。
演習の内容や細かな注意点なども詳しく教えていただき、理解することができました。
私見のことをとても配慮しながら講義をしていただけて良かったです。丁寧に分かりやすく、問題集まで作成していただき、ありがとうございました。
分かりやすい講義でしたが、実技は経験がないので不安だらけです。
報告および連絡できちんと説明することができるので、まず結果を報告することで内容が伝わりやすくなり、徐々に細かい部分を伝えることで理解してもらいやすくなるということが分かりました。5W1Hも重要だと思いました。
記録するということは利用者の生命を預かる上で、支援の内容が正確に実施できている事実を確認すること、利用者に関わる全ての人が共通の認識を持ってケアするために大切なことだと思いました。
喀痰吸引と経管栄養における報告と記録について詳しく知ることができ、良い勉強になりました。
高齢者や障害者の経管栄養の手順を分かりやすく理解できました。
復習しながら要点についてお話いただけて助かりました。
報告や記録の重要性と他職種間とコミュニケーションを図り、人間関係を良くすることが利用者との信頼に繋がるということ学びました。
最後の講義は今までの内容が重なっている部分もあり、復習になりました。
経管栄養の手順と声掛けなど学ぶことが沢山あり、日頃の患者に接する時の声掛けも大事だと思いました。
利用者の状態を把握し、いつもと違うと感じたら看護師や医師に報告することが大切だと学んだ。また5W1Hで起承転結に一目で理解できるよう記入することや報告を行うことの大切さを再認識することができました。
報告と記録の大切さを分かりやすく教えていただいたので良かったです。

講義 II 喀痰吸引・経管栄養における報告および記録 渡邊幸子
--

客観的に誰が見ても分かる表現や用語を使うことと、5W1Hを用いて記入することで、第三者がすぐに理解できるように記入することが大切と分かりました。
喀痰吸引と経管栄養のテストをさせていただき、勉強不足の所を見直す必要があると感じました。
本日の講義を受けて、胃ろうの方達への対応は、十分に気を付けないといけないと感じました。
本番のテスト前に講義でテストを受けることができて良かったです。改めて確認することができて良かったです。
自施設に帰っても繰り返しやってみて、実践のイメージができるようにしたいと思います。
他者が見ても分かるように内容の充実を図る必要があると思いました。
今回の研修でまず患者をよく観察し、少しの変化でも報告し、確認してもらうことが大切であると学んだ。勝手に判断してしまわないようにするなど、介護士として大切なことを学んだと思います。自院に戻って他の介護士にも伝えようと思いました。手順を覚えるのは大変だと思いますが、自院に戻ったら看護師がやっているのを観察し、覚えていきたいと思います。
テストの練習問題は自分がどれだけ理解できているのか、理解できていないのかを再確認することができました。間違った所をもう一度見直したいと思います。
この時間はまとめの小テストをしましたが、思っていたより良い点数が取れず残念でした。もう一回しっかりと思いだし、間違えて覚えてしまっている所を見直したいと思います。
何事も自己判断だけにせず、看護師などに報告することと、書面に残すことが大切だと改めて感じました。
実際にテストを行ってみて深読みしていた点が少しありました。直感も大切だと思いました。
経管の器材を使用しての説明など、とても参考になりました。テストも実施していただいて良かったです。
記録は利用者だけでなく、自分も守ってくれるものであると分かりました。
最後に問題をしてみて理解している所と理解していない所がありましたが、復習できたのでこれから活かしていきたいです。
緊急連絡網などは皆が分かりやすく、すぐ手に取れる所に保管しておくことが大切だと思った。
喀痰吸引と経管栄養について、今まで学習したことを再度理解できました。
テストがありました。解説を交えながらの答え合わせだったので、とても勉強になりました。
実際に模擬試験を受けてみて、理解できている所とできていない所が出てきたので、試験までに復習して同じ問題で間違えないよう頑張ります。

平成26年10月24日 AED演習

AED救急蘇生法演習・評価 日本光電工業
実際にやってみるととても大変だと感じました。沢山の人が協力してもらうのが1番ですが、もし周りに人がいなかったら自分1人で頑張らないといけないと感じました。
上手くできたか分かりませんが、実際に触れる機会が少ないので良かったです。昔講習を受けた時よりもAEDも進化していて使いやすかったです。
実際に見つける側と助ける側をやらせていただき、胸骨へのマッサージが長時間になると疲れることが分かり、協力者は必ず必要だと思いました。数年前と変わっていたので勉強になりました。
押す力がかなり必要だと思いました。体験したのは2分間ですが、とても長く感じました。
いざという時にできるよう復習し、町のどの辺にAEDが置いてあるかも確認しておきます。
胸を5cm沈むまで押すのにとても力が必要で、2分間やり続ける大変さを体験できて良かったです。
本日の講義を受けて、AEDの大切さが必要性を感じることができましたし、心臓マッサージの大変さも知ることができました。
人命救助の大変さを実感しました。妊婦に対してAEDを使っても良いと初めて知りました。
発見者側とAED操作側の両方を体験でき、とても勉強になりました。もし実際の場面に遭ってもできるだけ今日の体験を活かしたいです。そして必死に頑張ります。
実際に救急蘇生法をやって、力の入れ方や大変さを体験できて良かったと思います。
実際に演習を行い、知識を身に付けることができました。また応援を要請する時は、大きな声で人を指定して声をかけた方が良いと思いました。
AEDの使用方法和どのような働きで動いているのかが認識できました。
実際に人を相手にすると、骨が折れてしまわないかと色々考えてしまいそうですが、そのためにもよく練習をして、もしそういう場面でもパニックにならないようにしなければいけないと思いました。
実際にやってみると難しかったです。2回できたので、最初よりもコツが掴めてスムーズにできたような気がします。見るだけでは分からないと思うので、やってみることができて良かったです。
AEDの講義を終えて非常に勉強になりました。実際の現場に出くわしてしまうと、落ち着いて手順通りにできないと思いますが、しっかりと方法と手順を身に付け、頑張りたいと思います。
AEDの使い方について手順が分かりやすかったです。自施設で活かせると思いました。
普段することのないAEDの救急蘇生を体験でき、AEDの注意点を教えていただいて勉強になりました。
AEDは慣れていないので少し戸惑いました。実際にやってみると体力もいるし、大変でした。人命を救うのはとても責任重大なことだと感じました。
2分間だけでも1人で心臓マッサージをするのは厳しいと感じました。実際に現場に居合わせた時にどれくらい動けるかが重要

と感じました。
普通救命講習を以前受けてから6年ほど経っていたので、講習を受けられて良かったです。
実際に人形を使って胸骨圧迫を行うと、意外と硬く大変なのだと分かりました。人命救急のためにもっと手際良く行えるよう、普段からAEDの場所なども把握しておこうと思いました。
AEDを使って体験ができて良かったです。質問なども答えていただき、理解することができました。
AED演習は実際に触ってみると分かることが沢山あり、なかなかこのような演習を受ける機会がないのでためになりました。
何度か体験したことがあるが、戸惑った。定期的に練習する必要があると感じた。
初めてAEDを使いましたが、思ったより簡単で使いやすかったです。また妊婦さんにもAEDが使えることを初めて知りました。今後少しでも役立てることができたらと思います。
実際にAEDを使ってみて、見るのと体験するのでは違うので、現場に自分がいたら焦らずにできるようにしていこうと思う。
胸骨圧迫を5cm以上しようと思っても、なかなか力が入らず上手にできなかったが、コツを掴んだら前よりも深く胸骨圧迫できるようになったと思います。
以前AEDの講義は何度か受けたことがありますが、やはりやり方を忘れていました。改めて覚えることができて良かったです。
5cmの圧迫は思っていたよりずっと大変でした。今まで心肺蘇生は難しくて嫌だと思っていましたが、手順が簡略化されていて、できるような気がしてきました。
以前にも演習の経験はありましたが、忘れていた所もあり、色々詳しい説明を聞くことができて良かったです。
以前演習はやったことがあるのですが、やはり忘れていました。本日の演習でかなり記憶が戻ってきました。
チェック項目通りの手順で行い、AEDの使用方法も理解することができました。
初めてAEDを使ってみて、本当にそういった場面が訪れた時には落ち着いて行動できるようにしたいと思います。

平成26年11月6日 シミュレータ演習 1日目

【喀痰吸引】
喀痰吸引を教えていただき、文章で見ると実際にやってみるとではなかなか上手くできなかったです。実際に患者に対してやるとなると、失敗はできないのでしっかりと覚えたことを身に付けたいです。
いざ演習を行うと手順も多く難しかった。一つ一つが大事な手順なので忘れないようにします。
口腔内・鼻腔内の吸引を指導していただき、回数ごとに上達しましたが、気管カニューレはとても難しかったです。患者のことを考え、再度勉強したいと思います。
他の方の手技を見るのも予習と復習になってとても良かったです。段取りと観察するところをきっちりと覚えて、取り組んでいきたいです。鼻・口・気管それぞれの注意すべき所をしっかりと復習して確認をします。
前回の説明では時間の都合もあり簡単なものだったので、本日の講師との理解度の把握に時間がかかり、終了時間が遅くなってしまいました。そのようなことがあった中、丁寧に時間をかけて教えていただき感謝しています。
最初は覚えきれずとても不安でしたが、確実にできるようになり嬉しかったです。声掛けや器具の確認などはどちらかに集中し過ぎてよく抜けてしまう所があったので、気を付けたいと思います。
他人が行っているのを何度か確認しても、実際に行くと難しく、何度も抜けや失敗をしました。しかしこれは医行為であり、利用者を助けることもできますが、1つ間違えると逆に危険に晒してしまうため、本当に注意と適切な処置が必要なのだと改めて実感しました。明日は経管栄養ですが、頑張っていきたいです。
最初は緊張して自宅でシミュレーションしてきたことができず、気が焦るばかりでした。口腔内→鼻腔→気管カニューレと行うにつれ、少しずつ落ち着いて行うことができ、講師の方が傍で教えていただき、ちゃんと評価してもらえるようになり、自分に自信が付きました。何事も落ち着いてゆっくりと手順通りに行えるよう、今後も心掛けたいと思います。
喀痰吸引は手順が細かいので覚えるのが大変でした。習得して少しでも病院の手助けができれば良いと思います。
本番で間違わないようにしっかりと基礎を学べて良いと思いました。
口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部の演習で回数をこなすことができ、自信が少し付きました。
口腔内・鼻腔内の喀痰吸引は滅菌手袋を使用しないので、両手を自由に使用してやりやすかったのですが、気管カニューレの吸引は気を使いながら片手での実施だったので、難しかったです。どちらもとても緊張しました。
覚えているつもりでも、いざとなると頭の中が真っ白になってしまい大変でした。言葉もきちんと出せませんでした。
清潔と不潔の区別が難しく、取り扱いを慎重に行わなければいけないと実感しました。
項目ごとに理解しながら行うことがなかなかできなかった。留意点は詳しく書かれていて参考になりました。
実際に行ってみると、大事な部分が頭から飛んでしまって難しかったですが、一つ一つ成功していくと自信を持って行えました。丁寧に教えていただいて良かったです。
私は一つできたら一つ抜かしてしまうという欠点があり、何度も演習をしていただきました。講師の方が丁寧に教えて下さり、大変勉強になりました。
今日は喀痰吸引の演習を行い、色々実践で大事なことを色々学ぶことができました。今回学んだことを実習でも役立てていきたいです。
演習でしたが、緊張してしまう所が多々ありました。実際の現場では緊張感を適度に保ちながら行っていきたいです。

気管カニューレの喀痰吸引の際、吸引チューブを清潔に取り出す動作が難しかったです。
シミュレーションがほとんどできておらず、1 回目は本当に緊張しました。一つ一つの順番で行うことが大切だと何度も頭の中で繰り返しました。丁寧に教えて下さりありがとうございました。まだまだ先は長いので繰り返し覚えたいと思います。
最初はとても緊張しましたが、講師の方々がとてもわかりやすく、親切に教えて下さいました。そのおかげで緊張もなくなり、実施の試験も無事受けることができました。明日の試験も頑張りたいです。
グループの人達の手技も見て自分の間違いなどに気が付くことができて良かったです。実際に行うことでより理解ができたと思います。
手順や必要物品など間違わないかとハラハラしながら演習しました。実際に行うとなると生命に関わることなので、さらに慎重にならなければと思いました。
【経管栄養】
演習を行うと自分ができていると思ってもできない所が分かり、勉強になりました。何度も見ていただきありがとうございます。実践でもミスをしなないように復習していきます。
利用者ではなく人形で行いましたが、始めは緊張して思うようにできませんでした。またひとつの行為につまずくと、次の行為を忘れて頭の中が混乱して修正を行うのが難しかったです。
今回経管栄養のシミュレータ演習をしてみて、自分でやっていると分からない所や抜けている所に気付いていないことも見受けられたので、十分注意して今後行っていけるようにしないとけないと思いました。また声掛けの部分が抜けている所も見られたので、行う際や行う前にはしっかりしないとけないと思いました。
とても難しかったです。一つ一つの手順に意味があり、大切なことだと実感しました。わかりやすく優しく説明して下さい、とても理解しやすかったです。
繰り返し行ったことで、手順を覚えることができました。講師の先生からも言われましたが、自信を持って行わないと相手の方が不安になるので、継続してシミュレーションを行い、実践に備えたいと思います。
演習を実際にやってみて、なかなか上手くいかず、確認を忘れていることがよくありました。何回も同じ手順の所で間違ったり、一部抜け落ちたりしていました。明日また確認をしっかり取り、手順など間違えないようにしていきたいです。
とても緊張して何回もやっているうちに、最初はできていたことが次はできなかつたりしてパニックになりました。しかしとても丁寧に教えていただいたので、とてもわかりやすかったです。
経管栄養を触ったことはありましたが、1 つ 1 つ確認して作業を行うことや、見られながら行うことに最初はパニックになりました。見ているのと実際に行うのでは全く違いました。最初はできませんでしたが、段々できるようになってきて、嬉しくなりました。講師の方の教え方も丁寧にわかりやすかったです。今日教えていただいたことは忘れずに確実にこなせるようにしたいと思います。1 つできたら 1 つ抜けたりするので、注意しながら忘れてもきちんと思い出してできるようにしたいと思います。
一つ一つの順序と行為をしっかり覚えて患者の状態をこまめに確認することが大切だと思います。喀痰吸引の方もしっかりと覚えたいと思います。
手順を覚えるのが大変でした。胃ろうの手順は覚えてしまえば、鼻腔も覚えやすかったです。明日がとても不安です。
なかなか上手くできませんでした。「患者の立場に立って一つ一つの確認を行いながらやるとできるようになります」と教えていただきました。明日の演習に役立てたいと思います。
手順を正確に行うことの難しさを感じました。実際の経管栄養時には今以上に正確さが求められるし、利用者への安心や信頼のためにも正確に行えるよう、実地研修では指導者よりしっかりと確認して手順通りに行っていきたくと思います。また集中力が切れてくるので、そこから学ぶことの大変さもわかりました。実際の現場では集中力を切らさないことと、どこかで一度気を抜く時間を作ることも大切だと思いました。
一つ一つの手順に意味があり、患者の安全のためにも手順の大切さを再度理解しました。
初めて器具を使って演習を行ったが、不慣れなため何度も失敗した。何度も繰り返し行い、完全に手順を覚えなければ事故に繋がるため、大事な演習であると感じた。今回教わったことを忘れないようにイメージトレーニングを行いたい。
経管栄養の手順がなかなか慣れず不安だったが、先生に楽しくわかりやすく教えていただいたので、楽しく演習ができました。
今日初めて物品を使って胃ろうの経管栄養をしてとても緊張しましたが、先生が優しく教えて下さり、何回も行っていくと段々できるようになりました。人の生命に関わる行為なので緊張はしますが、自信をなくしたら患者を不安にさせてしまうので、自信を持ってできるようしっかりと手順を忘れないようにしていこうと思いました。できていない所はしっかりと確認し、確実に行っていきます。
実際に行ってみると緊張して手順を忘れてしまいました。先生が優しく教えて下さり、何回もするうちに慣れてきて自信も持てました。学んだことを活かして本番でも頑張りたいです。
手順など何度も確認しながら教えていただきありがとうございました。緊張と不安を常に抱えながらの実習でしたが、何とか頑張ることができました。
手順や確認や声掛けなど、なかなかスムーズにいかず大変でしたが、先生方に細かく指示をしていただき、グループで話ができ勉強になりました。
経管栄養の手順と声掛けなど基礎的なことを学べて大変良かったです。これからの仕事に役立てたいと思います。
最初の 3 回目くらいまでは緊張して手順を省いてしまうことがあったが、演習を行っていくうちに手順も覚え、しっかりと声を出しながら行うことができました。施設に帰ってから演習通りに実施できるよう頑張ります。

【喀痰吸引】
喀痰吸引も昨日と同様に大変難しく、何度も声に出して無事行うことができた。利用者の状態をよく観察して取り組んでいく。
口腔内・鼻腔内における確認は基本的には同じであるが、気管カニューレについては清潔を保つ点が特に重要であることが演習を行う上で理解できました。
演習2日目のため、緊張なく行えました。本日は人形で行ったため、口と鼻に吸引チューブを挿入しても動いたり、痛いと言われなくてもないので、実際に行う時は患者に痛みを与えずに行っているか不安な気持ちもあります。本日学んだことをしっかり行えるようにしたいと思います。
今回、喀痰吸引を行って清潔・不潔の大事さを確認しました。実際に利用者を間近にしてみた際に緊張したり、実施内容が頭から飛んでしまいそうなので、十分考えてイメージトレーニングをして取り組んでみたいと思います。
吸引の難しさを実感しました。行う際にちょっとしたことを忘れてしまい、注意を受けることが多々ありました。まだまだ至らない所はありますが、これから頑張っていこうと思います。
何もわかっていなかったのが、一から説明していただき助かりました。本日の研修で基本が学べて少しは自信が付きました。これからの実地研修で頑張りたいと思います。
滅菌の状態のものを使い、作業することの難しさを感じた。今後病院での実習となるので、継続して復習していきたい。
喀痰吸引は箇所によって清潔・不潔を使い分ける必要な箇所があり、持ち方やどの部位を持つてはいけなかなどしっかりチェックしながら進めていかなければいけません。途中で手順を間違えたり、必要なことを忘れていたりミスも沢山ありました。実地ではミスがありませんよう努力していきます。
とても難しくて均等してしまい、最初は色々なことが抜けてしまいましたが、先生が丁寧に教えてくれたのでなんとかできました。実地研修を行う時まで覚えておいて、丁寧に実施できるように頑張ります。
口と鼻の吸引は慣れてきたらできるようになってきましたが、気管カニューレの方は清潔動作を考えながら行っていると他の動作を忘れてしまったり難しかったです。もう少しスムーズに行えるようにしたいです。また見られながら行うのはやはり大変だと思います。先生に言われたことを頭に置いて頑張っていけたらと思います。
途中で行為の順番を忘れ、固まってしまうことが多々ありました。よく考えゆっくりと行うこと、冷静に落ち着いて行うことが大切だと思います。実際に患者と利用者に行う際はもっと責任感を持って行っていきたいと思っています。
気管カニューレの清潔の取り扱いが難しかったです。初めての経験でとても難しく感じましたが、生命を預かる立場として頑張っていきたいです。
清潔・不潔の操作に戸惑ってしまいました。現場での実習の際にきちんとした手順とやり方でできるか不安ですが、今回学んだことを思い出しながら実習を行いたいと思います。長い研修期間で大変なこともありますが、大変勉強になりました。
経管栄養での手順と同様に正確な動作が行えるように何度も練習することが大切でした。本日は集中し過ぎず、途中からは落ち着いて行うことができました。また清潔の保持に注意することの難しさや大切さがよく分かりました。
できない部分を集中的に繰り返し指導していただいたので何とかできました。基本的な手順は覚えることができたものの、不安は大きいです。施設に帰ってからも復習し、実習を頑張りたいと思います。
口腔内・鼻腔内の吸引は手順も同じだったので、回数を重ねるとできるようになりましたが、気管カニューレ内部吸引は清潔保持が難しかったです。施設に戻ってからはしっかり復習して習った通りに行えるよう頑張ります。
【経管栄養】
実際に普段やっけていても、ちゃんとした手順と声を出しながらやるととても難しかったです。戻ってからは本番だと思うので、しっかりとやりたいと思います。
経管栄養の手順を学んだ。施設内に経管栄養の方がいるのでイメージはできた。実際に行うのは手順が難しかった。時間に合わせて滴下する所がなかなか上手くできなかった。実地研修では指導いただいたことを活かせるように努める。
一連の流れを学習できました。声掛けをする注意点や観察点などしっかりと覚えておきたいと思います。実際にはスムーズにいかないことが多いと思うので、その時の対応をシミュレーションしておきます。確認事項もしっかりと覚えておきます。
今回は時間内に終了できて良かったです。休み時間がほとんど取れなかったのがつらかったですが、なんとか時間内に終わったのは講師の方々や色々と考えてくれた方のおかげだと思います。
確認の声掛けが抜けてしまうことが多く、胃ろうから経管栄養になった際も確認事項を混乱してしまいました。最終的には落ち着いて実習できたと思います。実地訓練もしっかり確認をし、落ち着いて行動しようと思います。
施設では胃ろうでの経管栄養は見る機会がありますが、経鼻経管栄養は見たことがなく、実際の利用者を相手に行うのは怖いんです。患者は口からの摂取が難しいため、経管栄養になっているとは思いますが、口からの嚥下注意異常の確認が必要であると感じました。実際の利用者のためにも適切な手段で行ってきたいと思っています。
胃ろうと経鼻経管の流れはほぼ同じでしたが、注意する所や確認は何度確認しても良いと思いました。確認をすることで間違えなくなり、自分自身の再確認にもなると思います。
胃ろう・経鼻経管ともに一つ手順を忘れると次は別の手順を忘れてしまったが、講師の方が手順のコツを教えて下さり、少しずつ落ち着いて作業が行えました。
経管栄養は喀痰吸引と比べて、それほど作業過程が多くないですが、覚えるのが大変でした。
状態の確認の大切さと何かあった時のことを考えることが大切だと思います。また患者の命を預かっていることの責任を感じました。

胃ろうによる経管栄養と経鼻経管栄養による演習を行って必要な声掛けと状態の確認、実施方法などを学ぶことができました。今後の実地研修でも手順通り実施できるようにしていきます。
覚えたと思っていてもいざ実行すると緊張してしまい、間違えることが多々ありました。間違えたことで同じ間違いをしないようにすることができました。無事終了できてホッとしています。
胃ろうからの経管栄養では胃ろう部の出欠などの確認や、嘔吐の確認を忘れがちなので気を付けたいと思いました。経鼻からの経管栄養では、誤嚥がないよう口腔内にチューブが出てきていないかの確認が一番重要だと思ったので十分注意できました。
確認を行うことやチューブの扱いなど事故を防止する重要なポイントを教えていただき、良い経験になりました。今後のためにもとても良い研修になりました。今後の活動に役立てたいです。
最初は工程の一部しかわかっていなかったのですが、今日の演習で行程がわかりました。やはり人が相手なので簡単にできることではないし、最善の注意が必要だと思います。
経管栄養の経験は以前勤めていた施設でありましたが、最初からきちんと行ってみると新たに知ることもありました。今回のことを忘れず、今後の経験に繋げていきたいです。
「接続部より50cm以上高い所にイルリガートルの液面があるか」という手順の所で何度も間違えたり、緊張して今までできていた手順ができなくなったりと大変でした。
細かい所まで理解でき、予習してきたこともさらに理解を深められて良かったです。5回という回数でしたが、回を重ねるごとに緊張し、抜ける項目が増えたので反省しました。
評価項目が少ないですが、確認作業が多くて大変でした。無事合格をいただいて本当に嬉しい限りです。

たんの吸引研修を通しての感想・意見
基本研修の最初の7日間は間に休みが欲しかったです。研修期間が長くなっても、1日の講義時間を減らして欲しかったです。詰め込み過ぎてあまり頭に残りません。遠方から通うのにはつらいです。一つ一つの講義内容は興味深いためになりましたし、これだけ吸引と注入について細かく学ぶことはないと思うので、実地研修に活かせるようにしたいと思います。
今回の9日間の研修を通して利用者の状態観察を十分把握しておかないといけないと思いました。利用者の人体の構造についても勉強になりました。たんの吸引と経管栄養の大事さを少しだけですが理解できたと思います。
色々な講義を聞くことができ、たんの吸引や経管栄養以外にも沢山勉強になりました。施設で実施できそうなこともどんどんやっていきたいです。これから実地訓練ですが、慌てず確実に行動ができればと思います。
吸引や経管栄養を行う際の意義やリスクや手順などを施設生活の上でも改めて理解でき、視野が広がりました。医行為である以上、救うことも危険に晒すこともあるので、正しい手順と状態観察が必要だと思いました。
たんの吸引などは仕事を始めてからまだ直接目にしたことはありませんでした。実際に自分で行ってみると普段とまったく違うことをやっている感じで、手順や確認などよく抜けていることがほとんどでした。やっていくにつれて感覚などは覚えていても、途中の細かなチェックや手順の違いもありました。今回の研修を職場に戻った際に役立てられるように努力していきたいと思います。
先生の指導の下で練習を5回ずつできたので、何となく感覚が掴めたように思います。職場に戻っても今回の練習を忘れずに実習に臨みたいと思います。
一日半の演習で経管栄養と喀痰吸引を覚えようと必死で頑張りました。何回も繰り返す中で不潔・清潔の区別をしっかりつけていこうと思います。手順も忘れないように気を付けていきたいです。
今回基礎から医療の知識を学べたことは大変ためになりました。今の職場では学べないようなことも沢山教えていただくことができたので、本当に勉強になりました。すべての介護職の人に受けて欲しい研修会だと思います。
喀痰吸引や経管栄養について手順をしっかり覚えることで安全な実施ができるので、今後も意識して集中して行いたいと思います。また体調管理もヒヤリハットの予防も含めてしっかりしたいと思います。吸引自体以外の関連する動作についてもしっかりと見直していきたいです。
一週間朝から夕方までというのは難しいと思いました。遠くからだ泊まりだったり、通いでも夜遅くなるので、家庭やその他の所に支障が出てきたことがありました。負担が大きいと感じています。お弁当が一週間同じ店というもお弁当が唯一の楽しみになっていたので残念でした。
講義が一週間続けてあるのは少し厳しいように思います。仕事の合間に来ている人がほとんどだと思いますので、職場も一人が一週間抜けてしまうと仕事にも支障が出てしまいます。できれば日を分けてくれたら通いやすいと思います。
全体を通して一週間連続は少し厳しかったです。もっと短い時間で受けたかったです。演習は楽しくできたので良かったです。実際に行うのは少し不安がありますが、この勉強を活かして頑張ります。
研修をして最初はわからない所もありましたが、実際に喀痰吸引や経管栄養の実施をして、しっかりと手順を確認してできるようにしていきたいと思いました。とても緊張して手が震えていましたが、先生方の優しい指導で少しだけ緊張もなくなり、研修をすることができました。
筆記と実地研修の両方を通してたんの吸引と経管栄養は命に係わる行為であることを一層実感し、今後も実地研修を積んでいきたいと思いました。
講習会の時間が長かった。普段座っていることが少ないので、1時間半～2時間の授業を7日も続けると途中で曜日感覚がなくなった。演習は演習前にきっちり練習する時間があれば良いと思う。人の健康や命を左右するかもしれないと思うとまだまだ不安です。

机上での研修や演習を通して喀痰吸引や経管栄養の基礎を学ばせていただきました。次は実地研修を修了して教えていただいたことを安全かつ正確に行えるようになりたいです。福祉に貢献ができるように頑張っていきます。色々な知識を教えていただいた講師の皆様には大変感謝しています。

講義と吸引研修を通して今まで看護師が行っている吸引・注入などを身近で見えてはいたものの、いざ自分が講義で聞いて実際に行ってみると本当に大変でした。こんなに勉強するのは国家試験以来だったように思いますが、内容の濃い研修期間であったと感じています。この経験を活かしてこれからの介護に役立てていきたいです。

施設に戻って再度手順の復習を行い、清潔保持の重要性について考えたいと思います。長時間のご指導ありがとうございます。施設に戻って演習で教えていただいた手順通りに行えるよう頑張ります。

9日間の研修はとて大変で長かったです。しかし、この研修から学んだことは今後の自分にとってかけがえのない宝になったと思います。研修に携わったすべての方にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

3. 第3回医療ケアマネジャー講座

3-1. プログラム

平成26年9月6日(土)

10:00～11:20	医療連携概論～医療がわかるケアマネジャーを目指して～ 講師：武久洋三 日本慢性期医療協会 会長
11:30～12:50	これからのケアマネジャーに期待されること 講師：森岡久尚 厚生労働省老健局介護保険データ分析室長
13:40～15:00	ケアマネジメントに求められる地域リハビリテーションの考え方 講師：齊藤正身 全国デイ・ケア協会会長
15:10～16:30	ケアマネジャーに必要な医療保険・介護保険の制度を学ぼう 講師：安藤高朗 永生病院理事長
16:40～18:00	ケアマネジャーに求められる医療連携の基礎知識 ～症状・疾病の理解と救急処置を含めて～ 講師：池端幸彦 池端病院理事長

平成26年9月7日(日)

9:00～10:20	患者に寄り添う看護の実際～ケアプランの基本として～ 講師：秋山正子 株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション代表取締役
10:30～11:50	ケアプランに必要な薬剤の知識 講師：秋下雅弘 東京大学大学院医学系研究科加齢医学教授
12:40～14:00	ケアプランに必要な認知症の知識 講師：栗田主一 東京都健康長寿医療センター研究所研究部長
14:10～15:30	地域包括ケアシステムにおけるケアプランのあり方① 講師：筒井孝子 兵庫県立大学大学院経営研究科教授
15:40～17:00	地域包括ケアシステムにおけるケアプランのあり方② 講師：筒井孝子 兵庫県立大学大学院経営研究科教授

3-2. アンケート結果

平成26年9月6日(土)

医療連携概論～医療がわかるケアマネジャーを目指して～ 武久洋三 先生	
今後さらに医療依存度が高い人が在宅に戻るようになってくるということを知ることができた。医療の知識をもっと高めるべきだと思う。また、単なる御用聞きケアマネにならないように、利用者・家族に十分説明できるようになりたいと思った。	
ケアマネに医療的視点が求められる理由を理解できた。	
終末期医療の在宅での取り組みは、医療も早期退院などの連携が必要だと感じました。	
「ケアマネは便利屋・給付管理をしていれば良い」という声を研修会に参加するとよく耳にします。専門職としての意識を高く持たねばならないと思いました。医療制度(ターミナル等)から介護保険制度まで広く学ぶことができました。	
高齢化社会に向けて、医療と介護の連携が必要である。それに伴いケアマネとして医療と介護の両方の知識を強化し、バランスも取っていく必要性が高いと感じた。	
医療の知識のみならず、制度に対する理解と柔軟性のある考え方が大事だと思いました。	
地域包括ケア病棟の説明に関して、わかりやすく勉強になった。またケアマネジャーとしての立場を主張し、今後の介護保険事業の先端を走りたいと思います。	
老健施設でケアマネ業務を行っていますが、年々介護度は高くなり、医療依存度も高くなっている状態です。他職種との連携・医師との関わり方を今以上に密にし、ケアマネ自ら学んで行く必要があると思いました。	
武久先生の主事ケアマネやターミナルなどの考え方は、非常に共感でき参考になった。私はケアマネ協会の役員をしているので、ケアマネ自身の団結や価値を高める発言を「よくぞ言ってくれた」と喜ばしく思った。地域でも御用聞きケアマネが多く、自	

<p>分が浮いているように感じていたが、間違っていないと強く思った。配布資料と講義で使用したデータが異なっていたのが残念。</p>
<p>ターミナルに対する考え方が変わりました。家族の考え方がいかに危ないかがわかりました。住み慣れた場所で死ぬことが良いと思いますが、やはりちゃんと看取って欲しいです。</p>
<p>医療制度の現状から今後について、とてもわかりやすかったです。 またケアマネジャーのあるべき姿も学ばせていただきました。</p>
<p>武久先生の「ケアマネの地位が低いのは意識が低いから」「家族などの御用聞きケアマネではいけない」「医療制度や介護制度をよく理解することが大切」との言葉を重く受け止めました。今後この言葉の意味を大切にしていきたいと思います。</p>
<p>「利用者が中心のケアプランがわがままケアプランになっていないか」というお話は目からウロコでした。わがままケアプランではなく、利用者にとって最良のプランと人間関係を築きながら作っていきけるよう努力していきます。</p>
<p>医療制度や介護保険制度の改定など、国の指針に着目しながら現場である介護療養型医療施設でのケアマネジャーとしての資質を高めていきたいと思う。また、在宅復帰率を上げていけるよう地域包括ケアシステムの一員としての役割を担っていきけるように、在宅関連業者との交流を図っていききたいと思う。</p>
<p>医療知識を豊富にすることで、医療連携が取りやすくなると共に、しっかりとした意見を述べることができ、適切な支援ができると感じた。</p>
<p>何が言いなりで、何が自己決定なのか、ケアマネジャーとして見極めるアセスメント力が求められると思います。</p>
<p>現状のケアマネに不足している能力、これから先の福祉に対する心構えを学ばせていただきました。まずは苦手意識が残る医療分野の理解・把握に努め、利用者にとって必要となってくる指針を福祉・医療の両面から捉えていけるよう学ぶ姿勢を大切に、スキルアップをしていききたいと思います。</p>
<p>御用聞きや言いなりになってしまうのは一定の知識がないからだだと思います。現在、機能強化型訪問診療所の相談員として業務させていただいているので、日々の仕事の中で学び、今後のケアマネジャー業務に活かしていきたいと思います。先生のお話にもあった地位・権限の低さは嫌と言うほど感じています。</p>
<p>「傷が治った」「歩けるようになった」など他の専門職と比べ、目に見えた成果が見えにくい。もしくは成果を出し切れていないのが現状のケアマネジャーだと思います。ケアマネジャーの地位向上のためには、今日の講義の内容をよく理解していくことが大切だと思います。</p>
<p>医師の想いなどが伝わり、頑張ろうと思えた講義でした。現場で行っていることや制度に繋がることもっと早く確実にできたら良い高齢社会になるのではないかと考えた講義でした。</p>
<p>先生の想いが沢山伝わってきて、もう少し時間があると良かったと思います。日頃高齢者の皆さんと関わってきて感じてきたことを先生が言語化して下さっていて、自分の中の想いも消化できたように思いました。私も認定審査委員をしていますが、現状毎回50～60件を審査して1次判定のままが多い・すり合わせだけの状態なので、不要に思います。</p>
<p>先生がケアマネの地位向上のために一生懸命説明して下さって嬉しかったです。ケアマネ協会に入会し、主張していきたいです。講義でご説明されていた3日・5日・7日というのは入院期間のことと理解してよろしいのでしょうか。</p>
<p>先生のケアマネに対する熱きエール、ありがとうございます。介護保険が始まった際にこの資格が専門職となるために必要なことを考え、細々ながら活動を続けていました。もっと気を引き締めて認定ケアマネ、主任ケアマネという役割を意識しながら、現場で這いつくばって展開してゆきます。</p>
<p>「各医療圏に地域包括医療介護支援センターを設立すべき」「これからは主治医ならぬ主事ケアマネジャーとならなければいけない」とのご意見、実現への道は遠くても大賛成です。医原性身体環境破壊のお話は普段のモヤモヤが晴れました。</p>
<p>ケアマネジャーとして働いて3ヶ月が経ちました。日々ケアマネの立場の弱さ、自分の医療的な知識の足りなさを痛感しています。便利屋にならない骨のあるケアマネになりたいです。</p>
<p>武久先生も介護支援専門員を受験し、協会に入会していることを知り、ぜひ入会しようと思いました。社会福祉士は美人・イケメンが多いという分析は当たっていることもあり、面白かったです。御用聞きケアマネから主事ケアマネジャーへ変わって行けるよう、自分達も協力したり、意見を言うことが必要だと思います。早速主任ケアマネを受講しようと思います。</p>
<p>とてもよくわかる内容であり、現在療養型病院のケアマネをしている者としては、医療連携の重要性をひしひしと感じる。病院に勤務している関係で学ぶ機会が多く、恵まれているが、他のケアマネを見ていると本当に勉強不足だなと感じている。</p>
<p>ケアマネジャーとしての地位が低い位置にあることをとても残念に思っている。自身は主任ケアマネジャーを取得して指導的立場にもなり、医療との連携が課題となることが多い。医療についての勉強会を今後行っていき、福祉系のケアマネジャーだから</p>

<p>と言われないうようにしたい。薬の内容や病名はある程度知っていてもまだ知識は浅いと感じている。自己啓発に繋がる内容で理解しやすかった。</p>
<p>患者が状態に見合った病床でその状態に相応しい医療を受けることは、今後のキーワードになると思いました。</p>
<p>看護師という立場上、今回の講義はとてもわかりやすく、「その通りです」と思うことがいくつもあり、私の周囲の医師達にこれからはもっと理解し、協力していただけたらと痛感しました。</p>
<p>介護の知識はもちろんのこと、これからは医療的な知識と支援のことも学んだ方が良いということがよくわかりました。利用者の方と利用者の家族の方、医師と看護師の方との間に立ってより良いプランを立てていくのは大変なことだと思いますが、知識を増やしてより良いサービスができるように学んで行きたいと思いました。</p>
<p>現在の医療の現状からこれからのケアマネのあり方がよくわかった。医療と在宅の流れを作り、利用者をレスパイトできるようにしていく。そのためにはケアマネの役割は大事だとわかった。</p>
<p>医療制度を含め、医療を理解することでより在宅ケアを進めることができるのだと思いました。これからの在宅ケアの重要性を再認識しました。</p>
<p>社会の動き、背景、医療・病院のあり方・機能について勉強になった。ケアマネジャーが社会に認められるように質の向上に努めることが重要と改めて実感した。御用聞きにならない的確な判断ができるよう、知識を深めていきたい。</p>
<p>地域差があるかと思いますが、担当しているケースでも、医療行為が必要な利用者が増えています。胃ろうや喀痰吸引、バルーン・インスリン・ストマー・酸素吸入等もあり、医療知識の必要性を感じています。訪問看護に同席させていただき、状態を理解できるように心掛けていきます。</p>
<p>ケアマネとして自信を持ち業務を行うこと、そのためにやはり医療の知識の習得が不可欠であることがよくわかった。</p>
<p>医療連携は苦手意識が先立って、積極的に行うことに抵抗があります。今日の講義で苦手の克服は重要であると認識できました。まずは医師と顔を合わせながら始めてみます。ケアマネジャーが一丸となって国に意見を申し立てられるように頑張りたいです。</p>
<p>これから30年の人口の推移変動の激しさに対し、それに見合った制度改革を行うと共に変化に対応する力が求められていると感じた。既存の課題を変革の中でどう解決していくのか、医療・介護制度の構造の理解と問題点の抽出、連携に求められているものは何かなどの「枠」を理解する資質や見極める力が必要だと感じた。</p>
<p>これまで医療分野での知識不足から医療機関への敷居が高かったが、先生の講義を受けたことによって、勇気がわきました。医療知識を深め、ケアマネジャーの地位を高めたいです。</p>
<p>これから医療に対しての知識がより必要になる理由がとてもよくわかりました。また、家族に対して言いなりになったり、振り回されている現状が確かにあると思うので、意見を言えるケアマネジャーになる必要があると感じました。介護・医療の両面をもっと勉強していきたいと思います。</p>
<p>これからの将来像が具体的に理解することができた。小規模のケアマネが変わることは私もふだん着になっていたことなので、主事ケアマネジメントができれば統一したケアが提供できるのではないかと考えた。</p>
<p>医師との連携は難しいのが現状ですが、今後徐々に連携ができるように努めていこうと思いました。</p>
<p>ケアマネジャーが医療的知識を持つ必要があることや、主事ケアマネジャーの必要性をわかりやすく説明され、講義もユーモアを交えた中で勉強ができたと思いました。医療的知識不足を常々感じており、研修を受け、ケアマネジャーの意義を再認識して今後の支援につなげていきたいと思いました。</p>
<p>医療的知識不足を実感しているのですが、もっと勉強が必要だと痛感しました。この思いを持ってすぐに取り組もうと思います。ケアマネ業務の責務も負担となることが多くなるなか、専門知識や地位の確立を目指したいと思います。</p>
<p>病棟の特色、地域包括ケア病棟からの患者との退院後の関わり方を改めて考えようと思った。今後の医療・介護の方向性をしっかり理解できた。</p>
<p>現在行っている自分達の地域包括ケア病棟の医師会との関わり(合同研修会)を通して、連携が深まってきていることが実感でき、講義を受けて進んでいる方向で頑張ろうと思った。</p>
<p>地域包括ケア病棟の役割を改めて理解できた。医師との連携に臆することなく関わっていけるよう、努力していきたいと感じた。</p>
<p>病院のケアマネジャーとして地域包括ケア病棟も始まり、日々スピード感に戸惑いがありましたが、当院がやろうとしていることは今後必要とされていることなのだと思えました。時間力と傾聴力を持てるよう、また不足している医療知識も学びたいと思います。</p>
<p>理想論だけでなく、本音が聞けたのが良かったと思います。話を聞いた後、すぐに資料を読みたいと思いました。介護も大事ですが、医療も大事で同じように考える必要があると思いました。</p>